

第6回

深川高校でのUDまちづくり講座の実践

(1) プログラム

日 時 | 10月2日(水) 13:00～16:00

会 場 | 深川高校 1階 大会議室

内 容 | 高校の授業でUDまちづくり講座をやってみよう！

・ 深川高校 2年3組の授業で実施しました。

タイムテーブル |

13:00(60分) 本日の進め方

各チームに分かれてリハーサル

・ 動き方の確認、時間内で行えるように調整

14:00(20分) 生徒さんが移動してくる

14:20(50分) 【UDまちづくり講座の実践】

15:10(10分) ～休憩～

15:20(35分) 【ワークショップメンバーで感想の共有】

・ チームに分かれて共有(30分)

・ 全体で共有(1G1分×5G=5分)

15:55(05分) 事務連絡

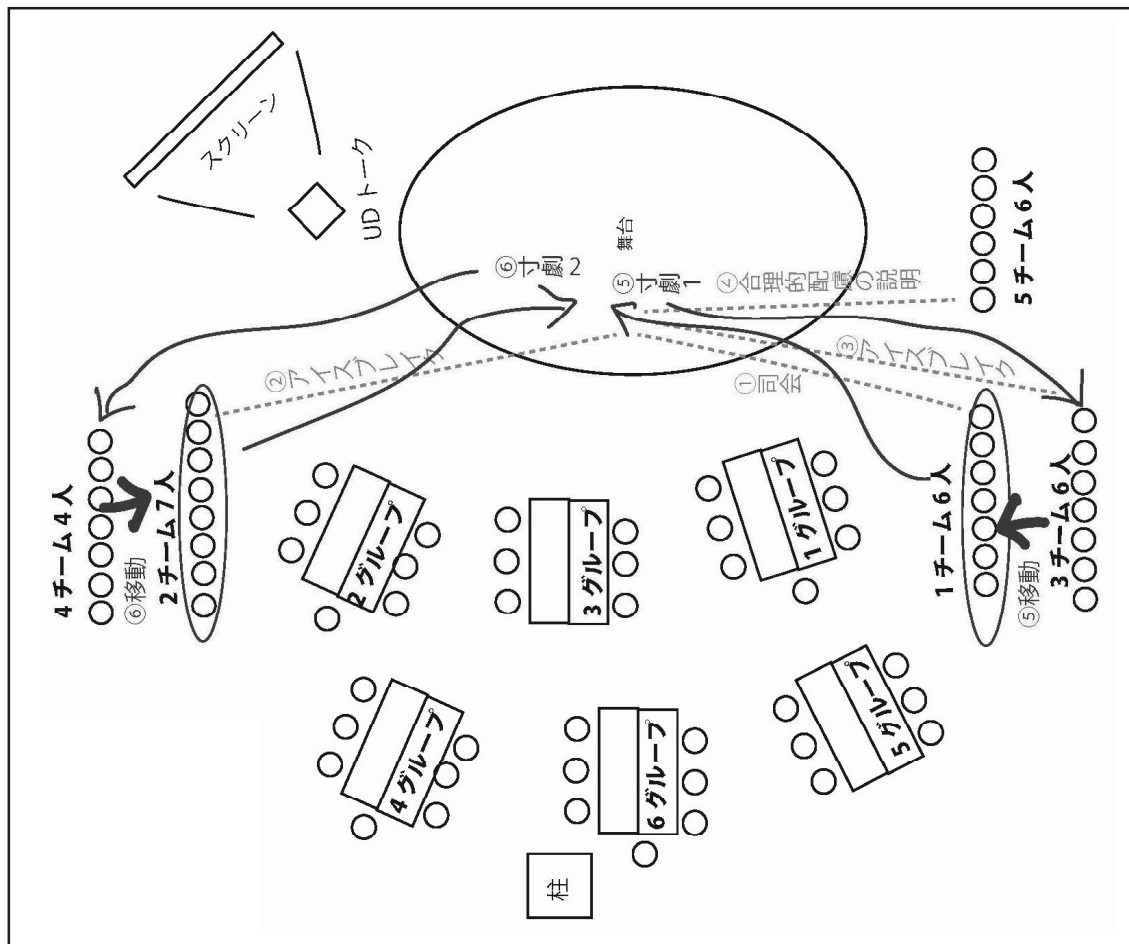
16:00 終了

（２）UD まちづくり講座のプログラムと会場

プログラム

- アイスブレイク
- 合理的配慮ってなんだろう
- 寸劇
 - 寸劇 1、説明とクイズ
 - 寸劇 2、説明とクイズ
 - 寸劇 3、説明
 - 寸劇 4、説明
- 感想の共有

会場



(3) UD まちづくり講座 シナリオ

以下のシナリオに基づいてUDまちづくり講座を実施した。

残り時間 0:50

司会 (1分)

=====

全体の司会 1人

全体のタイムキーパー 1人 (デジタルストップウォッチで時間表示)

=====

- ・今日は、江東区ユニバーサルデザインワークショップに参加しているメンバーが、UDまちづくり講座を行います。深川高校国際協力ボランティア部の部員もワークショップに参加して一緒に考えたプログラムです。
- ・では、さっそくはじめます。

残り時間 0:49

アイスブレイク 1 (2分)

=====

視覚障害者 1人

誘導する人 1人

=====

視覚障害者 | みなさん、こんにちは。

教室の高校生 | こんにちは！

視覚障害者 | まず最初に、簡単な質問をします。今日、学校までに来た通学手段を教えてください。自転車か、バスか、電車か、徒歩か、その他の手段か。

自転車できた人、いますか？

もしかして手をあげていますか？ 私は目が見えないので声もだしてください。もう一度聞きます。自転車で通学している人は？

電車は？ バスは？ 徒歩は？ その他は？

これからのプログラムの中でも、声も出してくださいね。音を出してもらえると私にもみなさんの様子が伝わります。

残り時間 0:47

アイスブレイク 2 (7分)

=====

聴覚障害者 1人

進行 1人

カードを配布する人 6人 (6種類を各1 + アルファ = 40人)

=====

進行 | 続いてグループ分けをします。声を出さずに同じグループの人を探してください。声を出さないコミュニケーションの方法を伝えます。

聴覚障害者 | 「口型」「ジェスチャー」「そら書き」など

進行 | 6種類の言葉が書かれたカードを配ります。見えないようにしてください。声を出さずにカードの内容を表現して、同じカードの人で集まってください。

(「花」「橋」「雨」「水」「雷」「パンダ」)

残り時間 0 : 40

合理的配慮の話 (3分)

説明 1人

目が見えない人は、目を使わなくても本を読むことができます。

耳が聞こえない人には、相手の声が聞こえなくてもコミュニケーションを取る方法があります。

車いす使用者は歩けなくても行きたいところに移動ができます。

障害のある人は、よく「できない人」だと思われそうですが、できないのではなく、同じことをするにも、多くの人は「やり方が違う」のです。

しかしこれまでのまちは、そのやり方の違いを考えてきていませんでした。そのために、何かできないことがあると、「それはあなたに障害があるせいだ」と、本人のせいにされてきました。

しかし現在の国の考え方は、「障害」は個人の身体の状態と社会のバリアの両方が関係して生まれているもので、こういう社会環境にしてきたこれまでのやり方に問題があるのだから、それを直していくのは社会の責任だという方向に変わっています。これを「障害の社会モデル」と言います。

この根本にあるのは、社会に出る、お店に入って買い物をするといった、多くの人が普通にできていることは、障害のある人にも当たり前でできなければならない、つまり、障害のある人も他の人と同じ権利があるのだという考え方で、そのことは国連で定めた障害者権利条約で世界中が同意しています。

これは、その社会に思いやりがあれば出て行ける、そのお店の人に思いやりがあればそこで買い物ができる、という社会やお店の気持ちの問題ではなく、思いやりがあってもなくても実現されなければなりません。

でも実際のまちは、昔からのままで「環境の整備」ができていないところがたくさんあって、今でも障害のある人にとってはバリアだらけです。このままでは近所のお店での買い物も大変です。

そこで重要になるのは周りの人の手助けです。

特にお店などをやっている事業者や役所は、障害のある人からの求めがあったら手助けしなければならないと法律で定められています。これを「合理的配慮」といいます。

合理的配慮を提供するには、お客がどんなニーズを持っているかの確認が必要で、そのためには「コミュニケーション」が大事です。

時には、そのニーズをかなえるのは無理なことがあるかもしれません。そんな時はできることとできないことを説明して、お互いに納得できる解決策を見つけ出すことが大切です。これを「建設的対話」といいます。

きょうは、その「合理的配慮」や「建設的対話」について、いくつかの例をもとに説明していきます。

残り時間 0 : 37

寸劇1 (4分)

=====

寸劇1の司会 1人

車いす使用者 1人

店員(高校生) 1人

店員(心の声) 1人

パネル係 1人

全体進行とパネルを掲げるタイミング出し 1人

=====

司 会 | 寸劇を見ながら考えていきます。ここはドラッグストアです。

パ ネ ル | ここはドラッグストア

お客(車いす) | (店に入ってくる)

店員(高校生) | いらっしゃいませ

お客(車いす) | (少し探している様子)

店員(高校生) | 何かお探しですか？

お客(車いす) | すみません、ボディソープを探しているのですが、どこにありますか？

店員(高校生) | ボディソープは2階です。

お客(車いす) | エレベーターはありますか？

店員(高校生) | 当店にエレベーターはないのですが。。

お客(車いす) | そうですか。。

店員(心の声) | (車いすの人は、どうやって2階フロアの買い物をすればいいのかな？)

司 会 | 車いすを使っているお客さんが、2階にある商品を買いたいと言っています。

司 会 | みなさんだったらどうしますか？

ここでは次のように会話が進みました。

店員(心の声) | (どうすればいいか、聞いてみよう)

店員(高校生) | どうすればよろしいのでしょうか？

お客(車いす) | 実際に商品を見て確認したいのです。

無香料で詰め替えではないものを3種類くらい、1階に持ってきてもらうことはできますか？

パ ネ ル | 本人からの意思表示

司 会 | この車いすのお客さんは、2階の商品を1階に持ってきて欲しいそうです。

店員(心の声) | (そうか、1階に持ってくるという対応もあるのか。でも、今レジにお客様が並んでいるな。レジのお客さんに対応してからでもいいかな) ※レジの方を見ながら

店員(高校生) | はい、お持ちできます。が、今、レジに並んでいるお客様に対応してからでもよろしいでしょうか。

お客(車いす) | ええ、いいですよ。では、レジの横で待っています。

パ ネ ル | 建設的対話

司 会 | レジに人が並んでいるので、それに対応してからでもいいかといった対話がありましたね。

店員(高校生) | お待たせしました。無香料で詰め替えではないものを3種類お持ちしました。いかがでしょうか。

お客(車いす) | では、これをください。

店員(高校生) | ありがとうございます。

司 会 | 2階にあがらなくても、自分の買いたい商品を選んでもらえて、合理的配慮の提供ができましたね。

残り時間 0 : 33

寸劇1の説明 (3分)

=====	
寸劇1の説明	1人
フリップ係	1人
クイズの解説	1人
=====	

- ・ 寸劇1の説明 | エレベーターがないという環境の不備があったので、人の助けでカバーしています。
- ・ 車いすを担ぎ上げることは無理なので、お互いの知恵を出して、建設的対話を行い、2階から商品を持って来るという合理的配慮を見つけ出しています。

【クイズ】

- ・ 寸劇1の説明 | こうした人の助けで解決できるならば、費用のかかるエレベーターは無くてもよさそうです。
- ・ お店としては以下のどちらを目指すといいと思いますか。手を挙げてください。

- ①エレベーターの設置をめざす。
- ②スタッフの接客力を向上させる訓練を行う。

【回答】

- ・ クイズの解説 | 両方です。今回は店員の助けで解決できましたが、やはり客としては自分でその売り場に行きたいものです。
- ・ エレベーターはすぐには設置できないとしても、将来的な設置をめざし、当面は従業員がきちんと接客できるようにする必要があります。

残り時間 0 : 30

寸劇2 (4分)

=====

寸劇2の司会 1人

視覚障害者 1人

店員(高校生) 1人

店員(心の声) 1人

パネル係 1人

=====

司 会 | 別のドラッグストアにもお客さんが来ました。

パ ネ ル | ここはドラッグストア

店員(心の声) | (あっ白い杖を持った人だ)

店員(高校生) | いらっしゃいませ。

お客(視 覚) | すみません、CM でやっているフラワーシャンプーはありますか？

店員(高校生) | 奥の棚にあります。ちょうど今、特売をやっています。

お客(視 覚) | そこまで案内していただけますか？

司 会 | シャンプーコーナーまで案内して欲しいそうです。

パ ネ ル | 本人からの意思表示

店員(高校生) | あっはい、...

店員(心の声) | (案内したいけど、どうやるんだろう)

司 会 | みなさんだったらどうしますか？

ここでは次のように会話が進みました。

店員(心の声) | (わからない時は聞いてみよう)

店員(高校生) | どのようにご案内したら良いですか。

お客(視 覚) | まず杖のない方に立ってください。私の半歩前に立ち、肘を持たせてもらえますか。そして、ゆっくり歩いてください。

[そのままの状態ですり歩く]

店員(高校生) | ここから通路が狭くなりますけど、...

お客(視 覚) | それなら肘を背中の方にまわしてください。

[狭い道用の歩き方で少し歩く]

パ ネ ル | 建設的対話

店員(高校生) | このような案内で大丈夫ですか？

お客(視 覚) | 大丈夫ですよ。

[少し歩いて止まる]

店員(高校生) | フラワーシャンプーはこちらです。

通常のボトルタイプが2種類と詰め替え用がありますが、どれにしますか？

お客(視 覚) | 通常の2種類を触らせていただけますか？

[お客が手を広げる]

パ ネ ル | 本人からの意思表示

店員(心の声) | (おっそうか、渡してあげるといいのか)

店員(高校生) | はい、1つ目を手の上におきますね。

[2つのボトルを1個ずつ渡す]

パ ネ ル | 建設的対話

お客(視 覚) | こちらをいただきます。このボトルはギザギザが付いているので、シャンプーだってはっきり分かりますね。

[重さや形を確認]

店員(高校生) | ありがとうございます。

司 会 | 好みの商品を確認してもらうことができ、合理的配慮の提供ができましたね。シャンプーのボトルにはギザギザ、リンスにはギザギザがありません。同じ大きさ、同じ形のボトルでも見分けることができます。

残り時間 0 : 26

寸劇 2 の説明 (5 分)

寸劇 2 の説明 1 人
フリップ係 1 人
クイズの解説 1 人

- ・ 寸劇 2 の説明 | 店の様子がわからない客が店員に手伝ってほしいとリクエストを出し、店員はやり方がわからないので、どうすればいいかを聞き、当人からやり方を教えてもらっていました。
- ・ できないとか無理だとかで諦めるのではなく、どうしたらできるかという姿勢でコミュニケーションを取っています。

【クイズ】

- ・ 寸劇 2 の説明 | レストランに白杖を持った視覚障害のある人が来たので、店員が点字のメニューをテーブルに置いて、「注文がお決まりでしたらお呼びください」と言って、呼びベルを渡しました。
 - ・ この接客をどう思いますか。手を挙げてください。
- ①気が利いていて良いと思う。
- ②ちょっとおかしいと思う。(そう思う理由も教えてください)

【回答】

- ・ クイズの解説 | (いくつか②で手を挙げた人に発言してもらい・・・)
- ・ 視覚障害のある人は点字が読める人もいますが、読めない人もたくさんいます。
- ・ 確かに①は手慣れた感じですが、その客が何を求めているかを確認せずに、自分がいいだろうと思う方法を押し付けています。
- ・ 点字が読めない人には、店員がメニューを読み上げるといった対応がありますから、まずは客がどういった対応を求めているかを聞くことから始めることがポイントです。

残り時間 0:21

寸劇3 (4分)

=====

前半の説明 1人
聴覚障害者 1人
店員 (外国人) 1人
店員 (心の声) 1人
パネル係 1人
まとめの説明 1人

=====

司 会 | 合理的配慮について、理解が深まってきたと思います。
3つ目の寸劇です。
ここもドラッグストアです。聞こえないお客さんが来たようです。

パ ネ ル | ここはドラッグストア

お客 (聴 覚) | (店に入ってくる)

店員 (外国人) | いらっしゃいませ

お客 (聴 覚) | (探している様子) <手話> 虫除けのスプレーはありますか? (声では伝えない)

店員 (心の声) | (何を探しているのかな? わからないな)

店員 (外国人) | 何をお探しですか?

お客 (聴 覚) | <手話> 虫除けのスプレーはありますか? (声では伝えない)

お客 (聴 覚) | <手話> 筆談をお願いできますか?

パ ネ ル | 本人からの意思表示

店員 (外国人) | (書くことはできない、という身ぶりをする)

店員 (心の声) | (日本語の読み書きは苦手なんだ!)

お客 (聴 覚) | 自分のカバンから紙とペンを取り出して、<虫除けスプレー>と書いて見せる。

店員 (外国人) | ダメという身ぶりをする。名札を見せて、外国人であることを伝える。

司 会 | どうやら、店員さんは外国の方で、日本語を読むのが苦手なようです。買いたいものが伝わりません。
もしあなたが店員さんだったらどうしますか?
このお客さんはどうしたでしょうか? では続きをご覧ください。

パ ネ ル | 建設的対話

お客 (聴 覚) | ジェスチャーで、「虫除けスプレー」がほしいことを伝える。

店員 (外国人) | ああ、わかりました。(と言って、二つの商品を持ってきて、どちらが良いか尋ねる)

お客 (聴 覚) | こちらをください。

司 会 | 聞こえないお客さんは、最初に手話で話しかけましたが伝わらず、筆談をお願いしましたが、断られてしまいました。自分のバッグからノートと筆記用具を出して見せてもやはり断られてしまいました。店員さんは外国人で、読み書きが苦手だったようです。
そこでジェスチャーに変えたところ理解してもらえました。
店員さんは選べるように二つの商品を持ってきてくれました。
二人のコミュニケーションによって、合理的配慮の提供につながったようです。
このように、1つの正解があるわけではなく、その場にいる人同士でよりよい方法を考えることが大切です。ほかにも、筆記用具がない時にはスマホで写真をみせたり、商品を直接指差するなどの方法もあるかもしれませんね。

残り時間 0 : 17

寸劇 3 の説明 (3 分)

=====

寸劇 3 の説明	1 人
フリップ係	1 人
クイズの解説	1 人

=====

- ・寸劇 3 の説明 | 客と店員の使えるコミュニケーション手段が違って、それでも、お互いがコミュニケーションを取るという目標に向かって建設的に協力し合っています。

【クイズ】

- ・寸劇 3 の説明 | 今回は何とかコミュニケーションが取れましたが、言葉が通じなくて、どうしてもお互いに理解できない状態を解決する方法にはどんなものがあるでしょうか。
- ・手を挙げて教えてください。(出た解決策をフリップに書き出す)
- ・クイズの解説 | (スマホの翻訳機能を使う、周りの人に手助けを求める、客が欲しい商品の載ったスマホのサイトを見せるなど、いくつかのアイデアを聞く。その上で・・・)
- ・ポイントは、ああ無理だねとあっさり諦めるのではなく、解決策を見つけ出そうと互いに協力することです。その協力の姿勢があれば、たとえ言葉は通じなくても、建設的な対話が行われていると言えます。

残り時間 0 : 14

寸劇 4 (2 分)

=====

寸劇 4 の司会	1 人
高校生	1 人
心の声	1 人
ベビーカーの人	1 人
パネル係	1 人

=====

- 司 会 | 最後に、まちの中でのシーンを見ていただきます。
- まちでこれからバスに乗ります。次に入ってくるベビーカーを押している人が乗ろうとしています、大きな荷物も持っています。
- 心 の 声 | (おっ、ベビーカーの人が大変そう)。
- 高 校 生 | 大丈夫ですか。
- ベビーカー | ええ、ちょっと段差が高くて、うまく持ち上げられないのです。
- 高 校 生 | なにかお手伝いしますか？
- ベビーカー | そうですね、この荷物をちょっと持っていただけますか。
- パ ネ ル | 本人からの意思表示
- 高 校 生 | はい、お持ちします。もう 1 つの荷物も持ちますか？
- パ ネ ル | 建設的対話
- ベビーカー | ありがとうございます。1 つ持っていただければ大丈夫です。(ベビーカーを持ち上げる)。助かりました。
- 司 会 | ベビーカーで出かけるといつも遠慮しながら、乗り物をつかっている、声をかけてもらうだけで「ありがたい」「ほっとする」と感じている人も多いです。
- 店員さんとお客さんがコミュニケーションをとって合理的配慮を提供しているようなことが、まちの中でも行われていましたね。

残り時間 0:12

寸劇4の説明 (2分)

=====

寸劇4の説明 1人

=====

- ・ 寸劇4の説明 | バスに乗るのに困っている人がいて、周りの高校生が助けを申し出ています。その際、ただ勝手にこうすればいいと考えるのではなく、やり方を聞いています。困っている人もやってほしいことをきちんと伝えて、手伝ってもらいました。町の中で、何かに困っている人を見ることがあると思います。その人に障害があるから手助けするのではなく、困っている人がいれば声をかけるのは、人間として自然なことです。
- ・ まずは相手に声をかけ、手伝いが必要かどうかを確認します。助けを求められたら、どうすればいいかを聞いて、そのように手伝います。鉄やコンクリートでバリアのない建物や道を造っても、やはりまだ使いづらい人はいます。立派な施設を造るのが目標ではなく、そこでみんなが安心して快適に使えることが目標です。そのためには、時には人の助けも必要です。
- ・ これは店員と客の関係だけではなく、まちにいるそれぞれの人同士の関係でも同じことです。
- ・ お互いがコミュニケーションをとりながら、より住みやすいまちをめざすこと、それが「ユニバーサル・デザインまちづくり」の目標です。

残り時間 0:10

感想の共有 (10分)

=====

全体の司会 1人

=====

- ・ では、最後にグループに分かれて、今日の講座の感想を出し合ってください。一番印象的だったこと、はっとしたこと、面白かったことなど自由です。
- ・ 時間は（残り時間）分です。
- ・ グループ内にワークショップメンバーも入り交流します。

（時間になったら）

- ・ それでは、UD まちづくり講座を終了します。